

令和元年度第 1 回

新千歳空港の 24 時間運用を巡る千歳市地域協議会

議 事 録

日時：令和元年 8 月 31 日（土）午前 10 時開会

場所：祝梅コミュニティセンター

令和元年度（2019年度）第1回新千歳空港の24時間運用を巡る千歳市地域協議会

・日時 令和元年8月31日（土） 10:00～11:45

・場所 祝梅コミュニティセンター

---

・議題

- (1) 住宅防音対策の進捗状況等について
  - (2) 地域振興対策の進捗状況等について
  - (3) 新千歳空港周辺地域振興基金について
  - (4) 平成30年度航空機騒音測定結果等について
  - (5) 新千歳空港における最近の動向について
  - (6) その他
- 

◎地域委員 出席者（20名）

◎北海道（9名）

◎（公財）新千歳空港周辺環境整備財団（5名）

◎千歳市（6名）

## 1. 開会

●千歳市（空港政策課長） 皆さん、おはようございます。

まだ何名かいらっしゃっていないのですが、時間になりましたので、ただいまより、令和元年度第1回、通算で53回目となります新千歳空港の24時間運用を巡る千歳市地域協議会を開催させていただきます。

本日の協議会は、お手元に配付しております次第により説明させていただきます。

## 2. 挨拶

●千歳市（空港政策課長） はじめに、北海道総合政策部長兼交通企画監よりご挨拶を申し上げます。

●北海道（総合政策部長兼交通企画監） 皆様、おはようございます。

まずもって、委員の皆様方、傍聴の皆様方、今日は朝早くからお集まりを頂きまして、心より御礼申し上げます。今日は土曜日ということで、お休みの方もいらっしゃったかと思えますけれども、この協議会にご出席いただきまして、心より御礼を申し上げたいと思います。

新千歳空港は、皆様もご承知のとおり、昨年度は2,300万人の方々にご利用いただきました。その中で、国際線の利用につきましては370万人と過去最高となっております。

こうした中、先般、石井国交大臣から、新千歳空港の昼の時間帯の発着枠を、来年春から1時間当たり50回に拡大するという発表がございました。

また、去る8月9日でございますけれども、新千歳空港を含みます道内7空港の運営の一括民間委託がスタートに向けて進んでございます。その優先交渉権者として選定されました北海道エアポートグループから、審査結果、客観的な評価結果及び提案の概要が公表されたところでございます。後ほど、担当から、その提案内容の概要について改めて皆様方にご説明させていただければと思っております。

平成27年に皆様のご理解とご尽力によりまして合意を頂きました深夜・早朝時間帯の発着枠でございます。今年の夏ダイヤでも1日最大16枠が利用されているところでございまして、まさに皆様方のお力添えによりまして、現在、発展する新千歳空港の原動力になっているところでございます。

一方で、24時間運用に係る地域の皆様方の安全・安心な生活環境の確保に向けて、現在、皆様方とお約束をさせていただいた住宅防音対策あるいは地域振興対策につきまして、道、千歳市、さらには財団の皆様と連携しながら取組を進めているところでございます。これも、後ほど、担当から皆様方に現在の進捗状況を含めてご説明をさせていただければと思っております。

本日、こうした対策の状況、あるいは、新千歳空港を取り巻く現状についてご説明させていただいて、その上で皆様方から忌憚のないご指導、ご助言を頂ければと思います。

我々は、皆様方のお話をよく伺いながら今後とも取組を進めてまいりたいと考えてございますので、どうか皆様方、引き続きご指導を頂きますようお願い申し上げます。簡単ではありますが、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

●千歳市（空港政策課長） ありがとうございます。

続きまして、千歳市副市長よりご挨拶を申し上げます。

●千歳市（副市長） 皆様、おはようございます。

皆様には、今日、早朝から、また、大変お忙しい中を地域協議会にこのようにお集まりいただきましたことに、心からお礼を申し上げたいと思います。

また、皆様には、日頃から新千歳空港の運用に深いご理解とご協力を頂いておりますことに、重ねて感謝を申し上げたいと思います。

今日は、ただいまご挨拶いただきました北海道からは総合政策部長兼交通企画監様、新千歳空港周辺環境整備財団からは事務局長様、さらには、各ご担当の皆様にもご出席いただいております。本当にありがとうございます。

ただいま部長からもお話がありましたが、深夜・早朝時間帯の発着枠につきましては、平成 27 年に、私も当時立ち会わせていただきましたけれども、皆様のご理解を頂きながら合意することができ、それに伴いまして、現在、順調に利用がされているというところであります。

また、空港に関わる大きな課題でありました新千歳空港の民間委託につきましても、7月に優先交渉権者が発表され、北海道空港を代表企業とする北海道エアポートグループが選定されたところでもあります。

今後、30年間にわたって実施する事業の提案の概要につきましても既に発表されたところではありますが、私ども市といたしましても、これまで競争的対話などを通じまして、地域振興に関わるいろいろなことを提案事業者に伝えてきたところであり、これからの展開を大変期待しているところでもあります。

これから、本市の成長発展につながるよう、相手方ともしっかりと連携し、協議をしてみたいとこのように思っているところでもあります。

本日の議題は、平成 28 年度から実施しております住宅防音対策の進捗状況、さらには地域振興対策などにつきましても北海道からご説明いただくこととなっております。

市といたしましても、各対策をこれからも円滑に進めるために、地域の皆様と情報の共有をしっかりと行いながら、また、北海道や財団とも連携しながら、これからも取組を進めてまいりたいとこのように思っております。

皆様には、これからもどうかご理解、ご協力を頂きますよう心からお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

●千歳市（空港政策課長） 次に、本日の協議会の議題でございますけれども、次第の 3 にありますように、報告事項として、（1）住宅防音対策の進捗状況等について、（2）地域振興対策の進捗状況等について、（3）新千歳空港周辺地域振興基金について、（4）平成 30 年度航空機騒音測定結果等について、（5）新千歳空港における最近の動向について、（6）その他となっております。

資料がお手元にならない場合は、事務局に伝えただけであればと思いますけど、皆様、資料は揃っているでしょうか。

本日、これらの内容につきましては、これから北海道等から説明いたします。

なお、ご意見やご質問につきましては、各議題の説明の後、随時お伺いいたしますので、よろしくお願ひいたします。

また、本日の協議会の終了時間につきましては、おおむね 11 時 30 分頃を目途にしたいと考えておりますので、ご協力いただければと思います。

議題に入ります前に、北海道から説明がございます。

- 北海道（新千歳空港周辺対策担当局長） 資料説明の前に少々お時間を頂きまして、私から、来年春からの新千歳空港発着枠の拡大に関してご説明させていただきます。

皆さんは既に報道でご承知かと思ひますし、先ほど部長からもお話がありましたが、新千歳空港の深夜・早朝を除く時間帯の発着枠、現在は 1 時間当たり 42 回となっておりますが、来年春から 50 回に拡大される予定となっております。

道ではこれまでも、発着枠の拡大につきまして、新千歳空港の機能強化の一つとして国に対して要望してまいりました。このような中、去る 7 月 9 日、知事が国土交通大臣と面談する機会がありましたことから、これまで要望しておりました発着枠の拡大と国際線利用者の受入体制の整備を重ねて要望したところでありまして、7 月 16 日には、国土交通大臣から、来年春から 50 回に拡大する旨の発表があったところでございます。

50 枠への増加・拡大に関する航空機騒音の影響は、国土交通省のシミュレーションでは、現行の防衛省が設定しております騒音コンターに収まることは千歳市を通じて確認しておりますが、深夜・早朝便以外のこととはいえ、道としまして、地域の皆様へのご報告が遅れましたこと、丁寧さを欠いた対応ということでごさひまして、大変申し訳なく思ひてございます。

新千歳空港の発展につきましては、地域の皆様のご理解があつて成り立つものと認識しております。新千歳空港に関する道の政策や考え方など、できる限り皆様にお示ししながら進めてまいりたいと考えてございますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

以上です。

- 千歳市（空港政策課長） ただいまの説明についてご意見等がありましたら、挙手の上、ご発言をお願ひいたします。

- A 委員 今説明がございました 50 枠ですが、私は、新千歳空港は、千歳にとつても北海道にとつても非常に大事な存在だというふうに私は思ひています。大きくなって、もっともっとお客さんが増えればいいなと個人的には思ひています。

ただ、今回、50 枠について、今説明があつたように、知事が要望されたということに関しては、それはそれでいいのしょうけれども、地域住民としては、私たちのこの協議会は深夜・早朝ということですが、日中の騒音についてもこれは永久に付いて回る問題です。これを地域住民、千歳市に最初から連絡があつたのか、ないのか、千歳市に対して要望されるということがあつたのか、ないのかということと、もしなければ、深夜・早朝便にもないにもかかわらず、私たちは簡単に済ますという問題ではないと思ひています。

その辺は、今回は鈴木知事の独断というふうに私は考へているわけですがけれども、もしそういうことであれば、いい機会ですから、地域協議会に鈴木知事が挨拶に来られる次いでに、その説明も一緒にされたらどうかという考へを持っています。

まず、市に対しての事前の連絡があつたのか、ないのか、また、道の担当セクションにも事前

の連絡があったのか、ないかについても説明していただきたいと思います。

- 北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 今のご質問ですけれども、まず、知事が上京する前に千歳市に連絡をしたかということにつきましては、連絡しておりません。

先ほど説明がございましたとおり、道としては、発着枠の拡大の要望は以前からずっとしておりまして、その一連の流れで、今般、知事が上京する機会があったという流れの中であったのですけれども、私、新千歳空港周辺対策担当課長を拝命しておりまして、深夜・早朝便の対策ということではありながら、新千歳空港の騒音対策について、担当している課長として思いが至らなかったと、皆さんへの報告、市への報告が遅れたことについては、ひとえに私の甘さがあったかと大変反省しております。大変申し訳ございません。一つは、市には報告していないということと、昼間便のこととは言いながらも、市に報告しなかったということと、知事につきましては、先ほど申しましたとおり、当然、知事個人で動いているわけではなくて、道というもののの中で、前からそういった枠組みをしているということでした。

先ほど局長から話がありましたとおり、千歳市を通じて、今回の発着枠の増加というのは、航空機騒音の影響については、国土交通省のシミュレーションの中で、現行の防衛省が設定している騒音コンターに収まると、対策範囲の変更はないということを確認しております。その辺を今日のこの場で説明させていただいておりますので、何度も言いますけれども、事前にお話に戻れなかったのは、ひとえに私の不徳の致すところでした。丁寧さを欠いた対応ということで大いに反省しておりますので、何とぞ皆様におかれましては、先ほど部長の話がありましたとおり、地域の皆様のご理解があって新千歳空港の発展が成り立つものと認識しておりますので、今後も、これを肝に銘じて、一生懸命、早めに新千歳空港に関する道の政策や考え方なども、できる限り早く皆様にお示ししてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

- A委員 当然、そうしていただかなければ、地域住民や協議会としても納得のいくものではないというふうに思います。個人的には、枠を拡大して空港がもっと大きくなればよいなと自分として思っていますが、先ほども申し上げたように、騒音というのは永久的に続くものです。だから、コンターの範囲内であればいいという問題ではないと思うのです。そういったことを安易な考え方で言われてしまうと、地域協議会として、今後、感情的なことに発展していくことにもなりかねないので、きちんとした対応をしていただきたいと思います。

今回、謝罪をすれば終わりというふうになるのかどうか分かりませんが、そういった問題でないということをきちんと理解していただきたいと思います。

- 千歳市（空港政策課長） 他にございませんか。

- B委員 今、Aさんからこの件について意見がありました。この問題については、この協議会で議論するものでないということは私も当然理解しております。発着枠については、国の専権事項であるということも理解しております。

しかしながら、これだけは理解していただきたいと思うのは、夜間と昼間のコースは全く同じなのです。それだけは理解していただきたいと思います。鈴木知事も、当然、北海道の発展を考えた中で出された意見だと私は理解しています。そういった中では、先ほど言いましたとおり、昼間と夜間のコースが変わるわけではないのです。

騒音については、今後、この場で議論する会ではないのですが、逐次、発着枠が拡大された中では、ご報告していただきたいと思います。

昨日も新聞報道によりますと、次の道議会で予算を計上しておりますね。おとといですか、知事も記者会見しております。その中ではっきり、来年3月には発着枠を拡大するということを知事は明言されておりますので、ぜひその辺のことも、我々の地域に、関わりはないにしても、丁寧な報告をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

●千歳市（空港政策課長） 他にございませんか。

●C委員 今、お二方からありましたように、基本的には私も同じなのです。

要は、トップダウンで来たこともしゃくにさわるのですが、問題は安全面なのです。前回、急激に32から40に増えて、2年経ったら今度は50と、これで本当に安全を守れるのかというのが住民の一番の不安なのです。

もちろん、騒音対策についてはこれからも引き続き実施してもらいたいと思うのですが、住民としては、安全面について本当に大丈夫なのだろうかということが心配なので、先ほどと含みますけども、事後ですね、何らかの説明の機会があればありがたいと思います。

決して我々も増便に対して反対するものではありません。私も、基本的には、空港機能が発達して、どんどん外国人の方にも来ていただいて、北海道が活性化していけばいいと思っています。ただ、住民をないがしろにしてしまうと、どうしても、また、いろいろと問題が出てきますので、そういったことも含めて今後はお願ひしたいと思います。

●千歳市（空港政策課長） 他にございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） 私どもとしても、今いただいたご意見を受け留めまして、今後、担当者レベルで連携をもっと密にしながら、市としても、速やかな、適切な情報のキャッチに努めてまいりますので、ご理解をお願いいたします。

### 3. 議事

●千歳市（空港政策課長） それでは、議事に入らせていただきます。

まず、議題（1）の住宅防音対策の進捗状況等について、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは資料1をご覧ください。

最初に、1の平成30年度の実績についてでございます。

今年から、千歳市と苫小牧市の全てをお見せする形をとってございます。

最初に合計欄を見ていただければと思います。

一番左の欄に意向調査回答数とございますが、これは住宅防音工事を希望している方の数でございます、件数と世帯数となっております。

まずは合計欄から説明しますと、両市を合わせた工事実績ですが、平成29年度までの累計は、一般住宅は件数が235、世帯数が278、集合住宅は件数が4、世帯数が34、合計で件数が239、世帯数312となっております。

皆様ご承知かと思いますが、29年度までということでございますが、工事を開始したのは28年9月でございます、それからの2カ年分ということでございます。

平成 30 年度の実績は、一般住宅が件数、世帯数ともに 130、集合住宅は件数が 9、世帯数が 72、合計で件数が 139、世帯数が 202 となっております、このうち前年度からの繰越分が、一般住宅で件数、世帯数ともに 21、冬期施工分が一般住宅で件数、世帯数ともに 25 となっております。

また、今年度の実施計画についてでございますが、両市を合わせた予定件数については、一般住宅が件数、世帯数ともに 141、集合住宅は、件数が 10、世帯数が 59、合計で件数が 151、世帯数が 200 となっております。

これまでの実績に今年度の実施計画数を加えた計を意向調査の回答数で割った実施率、住宅防音をしたいという意向調査を出された方の進捗状況になりますが、一般住宅は件数で 24.8%、世帯数で 27.0%、集合住宅は件数で 17.3%、世帯数で 20.8%、合計で件数として 24.4%、世帯数で 25.2%となっております。

続いて、千歳市分の工事实績ということで、上の千歳市分の表を見ていただきたいのですが、平成 29 年度までの累計が、一般住宅では件数が 183、世帯数が 226、集合住宅は件数が 3、世帯数が 12、合計では 186 件、238 世帯となっております。

また、平成 30 年度の実績は、一般住宅が件数、世帯数ともに 107、集合住宅は件数が 8、世帯数が 62、合計で件数が 115、世帯数が 169 となっております。このうち、前年度からの繰越分ですが、一般住宅は件数、世帯数ともに 21、冬期施工は一般住宅で件数、世帯数ともに 16 となっております。

また、今年度の実施計画についてでございますが、千歳市分の今年度の予定件数につきましては、一般住宅は件数、世帯数ともに 125、集合住宅は件数が 10、世帯数が 59、合計では件数が 135、世帯数が 184 となっております。

これまでの実績に今年度の実施計画数を加えた計を意向調査回答数で割った実施率につきましては、一般住宅は件数で 23.6%、世帯数で 26.1%、集合住宅は件数で 16.8%、世帯数で 18.6%、合計で件数が 23.2%、世帯数で 23.9%となっております。

次に、2 の令和元年度の実施計画についてでございますが、今年度は、道の当初予算の 6 億 8,000 万円に、昨年度に執行できずに繰り越した工事予算の 6,500 万円を加えて、合計で 7 億 4,500 万円を確保しております。

この結果、千歳市分につきましては、当初予算で対応するものが、一般住宅は件数、世帯数ともに 110、集合住宅は件数が 10、世帯数が 59、合計で件数が 120、世帯数が 169 となり、これに平成 30 年度からの繰越分予算で対応する一般住宅の 15 件、15 世帯を加えると、一般住宅で件数、世帯数ともに 125、集合住宅で件数が 10、世帯数が 59、合計で件数が 135、世帯数で 184 となっております。

年度内の施工計画としては年で 184 世帯を予定しておりますが、予備分といたしまして、一般住宅で 17 件、17 世帯、集合住宅で 1 件、8 世帯、合計で 18 件、25 世帯を補欠とし、工事の取りやめ、先送りが生じた際には、順次、工事を繰り上げていき、予算の円滑な執行と工事の進捗を促進する考えでございます。

次に、2 ページをご覧ください。

3 の令和元年度の現地調査についてでございますが、今年度の現地調査では、令和 2 年度に工



事を予定している住宅に対して実施するものでございまして、今年度の予定件数は、一般住宅で 111 世帯、集合住宅で 33 世帯、合計で 144 世帯を予定しています。

次に、4 の高齢者優先枠の設定についてでございますが、本年 3 月に開催させていただきました千歳市地域協議会勉強会でお諮りし、試行をすることで了承を得たところでございますが、今回は、募集方法も含めて、改めてこの場で説明させていただきます。

工事の優先順位については、皆様、ご承知のとおり、今までも高齢者を優先する取扱いとなっておりますが、基本的には騒音の影響が大きい地域から工事を進めております。

しかしながら、これまで、工事に関する相談では、特に高齢者から早期施工の希望が非常に多く寄せられており、本来の優先順位による工事を進めながらも、特に高齢の方を優先する新たな枠を年間 10 世帯分設定して、その枠の中で年齢順に工事を進めることとしたいと考えております。

詳しくは、3 ページの「住宅防音工事（高齢者優先枠）の募集」をご覧ください。

こういう形でチラシを作っておりまして、意向調査票を提出している方で、現地調査の案内をしていない方に郵送したいと考えております。

上段の枠の中のアンダーライン部分でございますが、85 歳以上の高齢者が 1 名以上居住している世帯で早期の住宅防音工事を希望する方を募集しまして、年齢順に年間 10 世帯分を工事候補住宅とするものでございます。

年 10 世帯ということにつきましては、皆様と目標としております年 200 世帯の 5%程度となりますが、この程度であれば、本来の優先順位での方々への影響を最小限に抑えられると考えてございまして、今回は 10 世帯と考えてございます。

なお、今回的高齢者枠の募集は、先ほどご説明したとおり、今年は試して、試行として取り組むものでございまして、その応募状況などを見ながら、次年度以降の実施について、再度、検討していきたいと考えてございます。

募集時期は 10 月上旬を予定しておりますが、周知方法としては、先ほど説明したとおり、このチラシを郵送することにしたいと考えておりまして、9 月中にできればと考えてございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、4 ページには、これを見てですね、希望される方の希望届出書を参考に掲載させていただいております。これもお送りします。なお、こういった部分については、町内会長さん等である皆さんにも、町内会の方々からご相談があるかと思うのですが、できれば財団に電話するように言っていただいて、財団のほうからしっかりと説明があったほうが取扱いとしては遺漏がないと思いますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

住宅防音対策の進捗状況等に係る説明は以上でございます。

- 千歳市（空港政策課長） ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等をお受けいたします。
- C 委員 進捗状況についてですが、平成 29 年 8 月にこの資料と同じような資料が出されまして、そのときの申込者数は、一般住宅で約 1,650 件だったのです。私たちもその頭で来てて、そのときの資料によると、平成 31 年度が終わった時点でだいたい実施率が 40%ぐらいというのが当初の見込みでした。別にこれを担保に取るわけではないのですが、今の実施率を見ますと、例えば、一般住宅でも 23%です。前回の一般住宅 1,650 件を基準としても、30%ぐらいの進捗率になる

のですかね。当初の申込者の数からすれば、いずれにしても、当初よりも進捗率が低いのかなという感じがしています。

私たちが住民から言われるのは、いつ来るのだろうか、これしかないのです。私たちも、答えるのは、この資料に基づいて、今、実施率が何%ぐらいだから、あと何年ぐらいかかりますということを概略では言えるのです。今回、また新しい資料が出ましたので、次年度以降も分母が増えた場合は逐次更新していただきたいと思うのです。去年、おとしは、年間の実施率だけだったので、全体がちょっと分からなかったのです。そういう面では、今回、大変、資料的には良い内容なので、今後もこのままお願いしたいということです。

最終的には、今回の50枠に絡めるわけではないですが、騒音対策が遅れると、やはり住民としては、1件でも早く、住宅防音工事をやっていただいて、少しでも騒音を軽減したいという気持ち強いと思うのです。その辺も含めまして、予算の絡みも業者の絡みもいろいろありますから、急に増えることはないと思うのですけれども、1件でも多く工事ができるように努力していただきたいと思います。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 工事の進捗状況ということでございます。

途中から町内会長等をされて、なかなか経緯も分からない方もいらっしゃるかもしれませんが、住宅防音工事につきましては、今回、合意にあたって、皆様とこういった場でいろいろと議論する中で、平成7年から始まった6枠と違って、住宅防音工事の実施する期間を定めなくて、対象となる方の意向に合わせて進めるということで始まったものでございます。

この住宅防音工事につきましては、当初、私どもが考えていた以上に、冬場の工事はやりたくないとか、業者さんの人手不足と言いますか、東京オリンピック関連の工事などで業者さんの人手不足もあって、業者さんもやりたい気持ちはあるけれども、なかなか受けられないですとか、また、国の工事に付加して、補完工事や基金を使った工事などもあって制度がなかなか進まないということで、皆さんと話し合った結果、やりたい方は1年目に財団の現地調査を受けて実施設計書を作って、2年目に工事に入りましょうということで、2年かけてやるということで、目標世帯を200世帯ということで進めておりました。

その進める中で、今、業者さんもなかなか手が追いつかないということや、皆さん当たり前のことですが、生活する中でちょっと家族状況が変わったり、いろんな状況があって、今年やろうと思っていたけれども、もうちょっと延ばしてくれということもあって、なかなか皆さんに最初にお示したような計画どおりに進んでいないことは確かでございます。

ただ、我々も、こういった場を通じて皆様からご意見を頂きながら、今後も効果的な住宅防音工事の進め方を絶えず検討して、その都度、皆様にもご説明しながら、ご理解を頂きながら協議しながら進めさせていただきたいと思っております。

いずれにいたしましても、年間200世帯を確実にクリアできるように頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

●千歳市（空港政策課長） 他にございませんか。

●D委員 先ほど課長から、お話がありましたけれども、高齢者募集につきまして分からないことがあれば電話で問い合わせてくださいという趣旨のことを言われたかと思いますが、よろしいですね。

そうであれば、高齢者であればあるほど、こういう文書がポンと回ってきても、よく分かりません。内容を読んでも。近くにいる人が聞けば、説明してくれると思うのですが、突然来ても分からないので、ここに問い合わせ先がありますが、これだけでは高齢者の方は問い合わせやすいものかどうか分からない。ここにはっきりといろいろと問い合わせてくださいという文言を入れたほうがいいのではないかと思います。高齢者の方は見て、分からないことがあれば、電話で、そのほうがはっきり分かる。そのようにしていただきたいと思います。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） ありがとうございます。

ご趣旨は分かりましたので、財団とよく協議して、分かりやすいようにさせていただければと思います。

今回の高齢者枠は85歳以上の方を対象としているのですが、実は、意向調査票では意向調査票の回答欄が75歳以上の方が何人いるかという聞き方をしているため、75歳以上の方がいる世帯は実は分かるのですが、その方が80歳なのか、88歳なのかということは実は分からなくて、また、その後、例えば地方にお住まいの親御さんが一緒に住むようになったといった変化もあると思いますので、全世帯に送ると、優先順位がまだ来ていない世帯に送ることになっていますし、ご指摘があったとおり、高齢者の方にもちょっと大きな字で、連絡先が分かるようにしていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

●千歳市（空港政策課長） 他にご質問などはございませんか。

●B委員 昨年の分が6,000万円ほど今年度に繰り越されたということです。この件につきましては、今年の春の勉強会のときに分かったのですが、この部分については辞退された方です。

私は、補欠制度を作ってはどうかという提案をしたのですが、今回、補欠制度を設けたのでしょうか。設けたとすれば、どの程度設けたのでおられるのか。また、その方たちの来年度以降の優遇措置についてはどう対応されるのか、お聞きします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 資料の1ページをご覧くださいと思います。

今年の例で言いますと、令和元年度の実施計画にいうことでお知らせしておりますが、この表の右側に予備分の数字を挙げてさせていただいていますが、今、Bさんがおっしゃったような補欠というのはこれに該当します。今回の実施計画の方でそういうものがありましたら、そこを順次入れるように対応してございます。

なお、予算が余ったと言いますか、そういった部分についても、その中でどこまでできるかということもございますので、その辺を調整しながら、この予備分の中で順次繰り上げていくという形をとってございますので、どうぞよろしく願いいたします。

また、繰り越された方への対応についてですが、今年やるよと言って、ごめんなさい、今年はやれないという方がいらっしゃるの事実ですけども、皆さん、それぞれ、財団に聞きますと、個別にいろいろな事情がございまして、一概にこうだからこうとは言えない部分もございまして、今回の住宅防音対策は、極力、皆さんの意向に沿って、皆さんの例えば住宅のリフォーム時期だとか、家族数が変わる時期だとか、そういったことにも合わせて、柔軟に実施しますということでご、皆さんの先輩方との協議の中で決まったかと思っておりますので、我々としては、一度そういう形で、設計まで入った方、よほど大きな変更がない限りは、その方からいよいよ今年やりたいというお話が来ましたら、極力、早めその方を優先してあげたいと思っておりますので、

どうぞよろしくお願いいいたします。

●千歳市（空港政策課長） 他にございませんか。

●A委員 今のBさんが言われたことと似たようなことですが、令和元年度の実施計画、ここで実施計画で合計が184世帯と、予備も25世帯ありますけれども、計画の段階で200世帯という数字をどうしてこういうふうにやっていけないのか。

予備は予備として、計画の段階で200世帯を割るということは、最初から200世帯はできないという考えで進んでいるのではないか。やはり200を維持するのであれば、ここはもっと考えていただかないと進捗状況は進んでいかないと思うのです。

予備については、今お話がありましたけど、辞退される方にはそれなりの理由があるのでしょうか。辞退されたらその次に繰り上げする、その準備をどこまでやられているのでしょうか。この準備をしておけば、計画の段階で184世帯なんて数字は出ないと思うのです。その辺をちょっとお願いします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 申し訳ありません。私の説明が足りなかったのと、表の作りがよろしくなかったとっております。

上の1番の表を見ていただければ、令和元年度の計画数の欄ですが、200世帯というのは、私どものほうでは、苫小牧と千歳を合わせた全体の数字ということでご議論させていただいておりまして、ここの184世帯というのは千歳市だけの数字で、混乱させてしまい大変恐縮です。これは本来、1番でお知らせするのであれば、2番は苫小牧市の数字も合わせた数字をお示すべきであったと、大変申し訳ございませんでした。

目標数の200世帯というのは、あくまでもこれは、昨年、現地調査をさせていただいて、今年やるということでご了解を頂いた数ということでございまして、2ページの現地調査の数を見ていただければと思うのですが、その年に工事を200世帯するということは、現地調査をその前の年に200世帯以上終わってなければいけないということになっておりまして、現地調査の数、実は、これも千歳市の数ですが、先ほど言いました2年ぐらい繰り越している方がいよいよやるよという数字もありまして、その辺の調整をしながら進めているものですから、全体の200世帯という工事件数の我々の計画は、1ページに戻っていただいて、200世帯ということでご理解いただければと思っております。申し訳ございませんでした。

●A委員 内容については分かりました。

ただ、現地調査が144世帯ということですね。これでは、次年度の計画もマイナスの数字で作らざるを得ないのではないですか。現地調査も数字に合わせていくような努力が必要ではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 分かりました。ありがとうございます。今のご意見を頂いて、財団としっかり話をしながら計画的に進めていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

●千歳市（空港政策課長） 他にございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） それでは、他になければ、この件につきましては報告済みとさせていただきます。よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

- 千歳市(空港政策課長) ご異議なしとのことですので、議題(1)の住宅防音対策の進捗状況等については、報告済みとさせていただきます。

次に、議題(2)の地域振興対策の進捗状況等について、北海道からお願いいたします。

- 北海道(新千歳空港周辺対策担当課長) 続きまして、地域振興対策の進捗状況等についてご説明させていただきます。

5ページの資料2をご覧ください。

まず、1の事業の概要等についてでございますが、千歳市の地域振興対策につきましては、新千歳空港周辺環境整備財団に毎年2億6,000万円を10年間、総額26億円の基金を新たに設置しまして、その造成した基金を活用して、住宅の防音機能の維持拡充等に資する防音機能維持・拡充等対策事業の他、防音機能確保対策事業、そして、生活環境整備等事業を実施することとしておりまして、現在、千歳市と財団が主体となって事業を進めているところでございます。

次に、2の事業の執行状況等についてでございますが、平成30年度は2億6,000万円を造成し、1億3,443万3,167円を執行しましたことから、1億2,556万6,833円を令和元年度に繰り越しております。

今年度は、昨年度と同様に、新たに2億6,000万円を造成し、1億3,100万円を執行する見込みであることから、1億2,900万円を令和2年度に繰り越す見込みとなっております。現時点の見込みではございますが、令和元年度末の時点で5億821万9,972円が繰越額の合計となっております。

3の事業の進捗状況等についてでございますが、防音機能維持・拡充等対策事業や防音機能確保対策事業は、先ほど説明した住宅防音工事、これは本体工事、補完工事、これをセットで実施することとしておりまして、平成30年度は76件を実施し、事業費は7,436万円となっております。

また、令和元年度は95件を実施する見込みとなっております。事業費は9,500万円を見込んでいます。

次に、4地域で実施する生活環境整備等事業についてでございますが、根志越エアカーゴ対策協議会の根志越温泉施設改修事業は、平成29年度に完成しておりまして、6,000万円を支出しております。

また、中央長都の中央釜加線道路整備事業につきましては、国で遊水池を整備した後、事業を実施することとしていると聞いておりまして、現在、千歳市と地域の皆様との間で協議を進んでいるところでございまして、協議が調い次第、順次進めていくことと伺っております。

次に、駒里連合会の駒里会館改修等事業は、昨年8月に完成し、6,000万円を支出しております。

次に、祝梅町内会の祝梅第一道路整備事業につきましては、平成28年12月に完成しております。事業費については、当初は15年で償還する起債を借り入れて、今年度まで利息の支払い、来年度から元金と利息を支払う予定であったと伺っておりましたが、今年度に全額を繰上償還することとなったと伺っておりまして、令和元年度は3,600万円の支出を予定していると伺っております。

道といたしましては、この事業の円滑な実施について、今後も千歳市や財団とも連携しながらしっかり取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。説明は以上でございます。

●千歳市（空港政策課長） ただいまの説明について、ご意見やご質問はございますでしょうか。（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） それでは、異議なしと声がありましたので、この件については報告済みとさせていただきます。よろしいでしょうか。（「異議なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） ご議題（2）の地域振興対策の進捗状況等については、報告済みとさせていただきます。

続きまして、議題（3）の新千歳空港周辺地域振興基金について、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 続きまして、6ページの資料3をご覧ください。

最初に、基金の概要についてございますが、造成目標の30億円に対しまして、平成30年度末の基金造成額は19億5,505万円となっております。

これまでも説明させていただきましたが、今回の30枠合意を契機として、道内で事業活動を行っている企業を中心に、約70社に対して私どもが訪問しまして、基金造成への協力依頼を行ってきた結果、現在のところ、16社から総額1億1,540万円の寄附の表明を頂いております。また、そのうち平成30年度に寄附金を納入いただいた企業は、6社、4,395万円となっております。

ご寄附いただいた主な企業は表のとおりでございます。

次に、基金造成に向けた取組ということでございますが、道としては、昨年引き続き、道内で事業を展開する企業に協力をお願いしてございまして、基金の確保に向けて今後も努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

説明については、以上でございます。

●千歳市（空港政策課長） それでは、これについてご意見やご質問はございませんでしょうか。（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） それでは、これも報告済みとさせていただきます。よろしいでしょうか。（「異議なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） それでは、議題（3）の新千歳空港周辺地域振興基金については、報告済みとさせていただきます。

次に、議題（4）の平成30年度航空機騒音測定結果等について、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 続きまして、7ページの資料4-1をご覧ください。

航空機騒音の測定局は、千歳市内においては、北海道が設置しました9局、千歳市が設置した8局、合計17局がございます。

なお、表の右側には年間Lden値と民航Lden値を記載しておりますが、千歳飛行場を離着陸する自衛隊機を含む全ての航空機騒音を集計した結果というのが年間Lden値ということでありまして、また、民航Lden値とは、民航機の騒音だけを識別、分離して測定することができないことから、自衛隊機の離着陸のなかった日、この日を民航機のみ航空機騒音を測定した日とみなして集計した結果でございます。

平成 30 年度の測定結果につきましては、平成 30 年度の欄の太枠で囲った部分となります。

民航 Lden 値につきましては、平成 29 年度と比較すると、自衛隊機の飛行日を除いた後の集計対象日数が異なることや気象状況等によって算出値が変化する場合があることから、単純には比較することはできないのですけども、駒里をはじめ 4 局において前年度の値を上回る結果となった一方で、東郊など 9 局では昨年度を下回る結果となっております。

いずれの局においても、全ての測定局で対策の目安となる環境基準は下回っているところがございます。トレンドとしても大きく変わっていない、皆様と 30 枠合意をした時期と比べてもトレンドとしては、大きく変わっていないということで、ご理解いただければと思います。

平成 30 年度の民航機の騒音測定結果に係る説明は、以上のとおりでございます。

続きまして、資料 4-2 も説明させていただきます。

8 ページをご覧ください。

この資料では、遅延便ということで、30 枠以外の便で出発ないし到着が予定より遅れたことによって深夜・早朝時間帯を使用した便のことを遅延便と定義しております。

1 の航空会社別便数についてでございますが、平成 28 年度、29 年度は、共に 423 便、平成 30 年度は、過去 2 年間に比べて 74 便減少して、349 便となっております。

航空会社別では、ADO が 126 便と一番多く、前年よりも 34 便増加し、全体の 36% を占め、次いで ANA、JAL の順となっております。

続いて、2 の遅延理由別便数についてでございますが、平成 30 年度は、天候による遅れが 147 便と一番多くて、全体の 42% を占めております。特に、下のグラフに示しているとおおり、冬期間の 12 月から 2 月にかけては、悪天候や滑走路の除雪が追いつかないと、そういった理由によって多くの遅延が発生している状況です。

また、その他してございますが、機材の不具合や機材繰り、運航乗務員の接続遅れなど、そういったことが含まれております。

続いて、3 の時間帯別便数についてでございますが、平成 28 年度から昨年度までは 22 時、夜 10 時から 10 時 19 分の便が離着陸する便が一番多かったとなっております。平成 30 年度では 166 便と全体の約半数となる 48% を占めているということでございます。

また、22 時台、10 時台の遅延便というのは、20 分刻みぐらいで示しておりますが、それが全体しますと全体の 85% を占めているといった状況で、真夜中にまで繰り越す、遅延する場合は非常にまれなケースなのかなというふうに考えてございます。

遅延便に係る説明は、以上のとおりでございます。

●千歳市（空港政策課長） 今の説明について、ご意見やご質問等はございませんか。

●A 委員 騒音の測定の件ですが、苫小牧と千歳の騒音の値ですけど、苫小牧は、一番遠いところで、恐らく勇払の東だと思っておりますが、勇払の東と千歳の中央長都、こちらの距離が、どのぐらいの差があるのか、測っていますか。恐らく、倍ぐらい違うのではないかと思います。距離がそれだけ違うのに、なぜこういう数字が出てくるのかと。

特に、24 時間の予測値で、苫小牧がほとんど 60 以上となっておりますけれども、これが本当にそうなのでしょうか。

私は航路直下にいますけれど、北から南に降りる南風、夏は当然、北から南です。冬も意外と

北から南が多いのです。なぜかという、それは滑走路の関係からです。そういった実績を踏まえて、この予測を立てられているのか、それからその距離も合わせて。

私は、苫小牧の東、勇払の端のところまで防音対策がなされていると思いますけれども、この数字は果たしてそうなのか。実際に平成30年度の数字を見ると、一番少ないところで50となっています。

では、千歳の端のほうの中央長都はどうか。距離的には圧倒的に近いのです。近いということは航路も低いはず。そういったところも併せて考えられているのかということです。

苫小牧の東と中央長都の距離はどれぐらい、私はだいたい倍ぐらい違うと思います。ちょっと調べていただきたい。

- **北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）** 中央長都と勇払の距離というところについては、正確な数字をお示ししたほうが良いと思います。私も今、ここでデータを持っていないので、宿題とさせていただきます。よろしいですか。

それと24時間の予測W値につきましては、6枠合意のときに皆さんと設定した数字でございまして、A委員はご存じかと思うのですが、専門的な話になりますと、実はW値というのは、音の流れている時間を20秒ということで設定して、この面積を出すのですが、その際に20秒と仮定して出すものです。これは、ICAOという国際航空協定の中で航空機騒音の対策をする場合に使いますが、相前から、昭和の時代からW値を使っているのですが、最近、技術的なことが進みまして、Lden値は積分で、その面積を全部出して、その聞こえている実際に流れている音が20秒でなくて、15秒だったり30秒だったり、それによって面積を出して音の量というものを計算することです。そこで、先ほどA委員から、航路が違うのではないかと、かなり北から南、千歳側から降りているというお話ですが、これも皆さんご存じのとおり、新千歳空港の運用するにあたって、飛行機は風に向かって飛ぶということでございまして、千歳側から降りるということは、逆に言えば苫小牧側から離陸して、上がっていくということでございまして、これはA・B滑走路をそれぞれ今、新千歳空港というのは、離陸用と着陸用で使い分けておりますので、理論上は半々で音がそれぞれの地域に行っているということでございます。

その中で民航Lden値の計算というのは、先ほど言ったように、離陸というのはグッと上がって、音の影響が地上に出ないように早く上がっていく、その分エンジンは高い音が出るが、時間は短い、逆に着陸というのは、ゆっくりと降りてきますので、時間が長いということで、実は、そのデシベル値も違いますし、もっと言うと周波数も違って、不快に感じる方というのは、人それぞれ違うというのが、音の専門家がよくおっしゃることです。

いずれにしても、この数値は、どこかにブラックボックスがあるわけではなくて、機械的に計算して出している数値ものですから、もう一度、その中身も精査した上でご回答させていただければと思っておりますが、よろしいですか。

- **A委員** 分かりました。いずれにしても、今、言われたように滑走路A、Bを使い分けて、基本的には半々ですと、そういうわけにはいかない、実態はそんな半々なんてあり得ない。なぜかという、圧倒的に南風、千歳から苫小牧側に、これが多いわけですから。今、言われたように、離陸については、今の飛行機は性能が良いですから、離陸したらすぐに上に行くのです。ですから、苫小牧の東はほとんど関係ないと思います。そういう航路で通っていると思います。



ですから、私が言うのは、そういった離陸と着陸の違い、それから距離が果たして合っているのか、実態と。今の飛行機は性能がいいですから、滑走路の端に行ったら相当上に行っています。苫小牧の街、皆さんも飛行機に乗るでしょうから、苫小牧市の上空、どのぐらいの距離になっているか分かると思います。その辺をお願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 宿題としていただきたいと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

●千歳市（空港政策課長） 他にございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） それでは、一部、お持ち帰りとなったものがありますけども、これについても報告済みとさせていただいてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） それでは、議題（4）の平成30年度航空機騒音測定結果等については、報告済みとさせていただきます。

続きまして、議題（5）の新千歳空港における最近の動向について、北海道及び千歳市の担当から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） まず、私のほうから、9ページの資料5-1をご覧ください。

最初に、1の深夜・早朝時間帯における国内定期便についてでございますが、表に記載のとおり、今年の夏ダイヤにおいては、昨年と比較して2便減の1日最大16便の定期便が運航しております。一方で、本年4月にはLCCのピーチアビエーションが新千歳ーソウル線を就航しております。30枠の合意を頂いた以降、初めての深夜・早朝時間帯での国際定期便がこの夏ダイヤで就航したとなっております。

次に、2の深夜・早朝時間帯における臨時・チャーター便でございますが、これまで、韓国やインドネシアなどのアジア諸国及びグアムへの臨時・チャーター便が運航され、近年は韓国とのチャーター便が堅調に推移していましたが、今年度においては、韓国の務安線の7便のみと大きく減少しております。

今回のチャーター便の減少については、航空会社から聞いている話としては、韓国の都市部であるソウルなどの地域では、昨年の北海道で起きた胆振東部地震の影響というところでの旅行控えは小さかったのですが、地方の方々は、務安や済州ですとか、そういった方々はまだ地震の影響を心配して、なかなかチャーターを出せないんだと、夏場前には伺っていたのですが、ここに来て増えないということを見ると、最近の日韓関係の状況もあるのかなということに考えておまして、この状況を私どもとしても注視していく必要があると考えております。

いずれにしても、私どもが航空会社を回る中で、深夜・早朝時間帯のメリットといったことは徐々に浸透してきていると感じてございまして、今後とも、皆様からご了解いただきました深夜・早朝時間帯の発着枠が有効に活用されるように、航空会社等に対して働きかけを行っていきたく考えておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

資料5-1につきましては、以上のとおりでございます。

続きまして、資料5-2につきましては、空港運営戦略推進室の参事から説明させていただきます。

●北海道（空港運営戦略推進室参事） この協議会に初めて出席させていただきます。どうぞ、よろしく願いをいたします。

私からは、北海道7空港の民間委託の状況についてご説明をさせていただきます。

資料といたしましては、10ページの資料5-2と、別冊でお配りをさせていただいております資料1とカラー刷りの資料2を用いて、簡単にですがご説明させていただきたいと思っております。

道内空港の民間委託については、先ほど交通企画監のご挨拶でもありましたが、皆さんも報道等でご承知のとおり、先月3日に事業者が選定をされまして、8月9日には別冊にしております選定結果と提案概要が公表されたということになっております。

選定結果でございますが、10ページの資料5-2にございますとおり、北海道空港株式会社が代表企業となっております北海道エアポートグループが279.4点ということで、一番いい提案ということで、選定されたということになっております。

なお、この審査に当たりましては、国が代表して有識者等で構成されます審査委員会を設置しまして、一体的に7空港の審査を行いまして、この結果になったということになります。

この審査の経緯等につきましては、別冊の資料1の5ページ以下に経緯というものがございません。

この提案内容につきましては、第1次審査、第2次審査という2段階で行いまして、北海道7空港の航空ネットワークの充実強化を図り、地域と連携した広域観光の振興、それから地域経済の活性化に資するものを総合的に判断したと、そして選定いたしましたということになっております。

先ほど申し上げた第2次審査の結果につきましては、資料1の11ページ、12ページに2次審査の採点結果を細かい表になっておりますが、記載をされております。1次審査を含めた全体の審査の詳細につきましては、この資料を後ほどご覧いただければというふうに思います。

新千歳空港を含む7空港の運営につきましては、今回選ばれた北海道エアポートグループというコンソーシアム、代表企業のHKKが直接行うものではなく、資料の10ページに、コンソーシアム、北海道エアポートグループの17社の社名が書いてありますけれども、ここが新たに会社を設立いたしまして、運営を専門的に担うということになります。

なお、会社の設立については、現在、手続中と聞いております。

次に、提案概要につきましてでございます。

カラーの資料ご覧ください。

この資料の1ページ目でございますとおり、当初10年間で関係者と連携いたしまして様々な取組を行っていくことで道内全域での周遊観光の動きを創出していくと、現在、新千歳空港に集中しております国際ゲートウェイとしての機能は7空港に分散・拡大するとともに、新千歳空港を始め、7空港全体で路線数や旅客数の拡大を図るということを目的としているところでございます。

特に新千歳空港につきましては、2枚目の裏側から3枚目の両面の3ページにわたってまとめてあります。右上に新千歳空港と緑色の帯になった部分が、新千歳空港に係る提案となっております。

国内・国際線ビル改修、ビジネスジェット専用ターミナルの新設ということで、約2,950億円

の設備投資というものが予定されている他、空港周辺の新たな交通体系への取組によりまして、周辺地域のまちづくりに貢献すること、環境対策・地域共生の専門部署を設置して、空港周辺地域への環境対策に取り組むということが提案をされているところでございます。

なお、個別具体的な計画、何年度何をするとかそういうものにつきましては、今後、会社が設立されまして、来年6月の運営開始に合わせてその計画作りというものが行われるということになっております。

現時点での今後のスケジュールというところでございますが、資料5-2の10ページに戻っていただきまして、下のほうに今後のスケジュール、予定というものがございます。

10月頃に実施契約の締結と、新千歳空港については、会社と国が契約を結ぶということになっております。そして、所定の手続、引継ぎを経た上で、空港運営委託の開始につきましては、令和2年6月1日が新千歳空港の運営開始と、それに先立ちます1月には、ビル事業は新しい会社に移行するというふうに予定されているというところでございます。

道といたしましては、令和2年からの道内7空港一体での運営開始に向けまして、着実な推進に取り組んでまいりたいと考えているところでございます。簡単ではございますが、説明は以上でございます。

- 北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 私のほうから補足説明で説明させていただきますが、民間委託に関しまして、この深夜・早朝便対策との関連についてでございますが、優先交渉権者から住宅防音対策費用の総額の一定額について負担していただくことになってございます。

なお、これまでも皆さんにご説明しておりますが、この30枠の拡大に伴って、現在進めております住宅防音対策、地域振興対策につきましては、民間委託後におきましても、道及び千歳市、財団が連携して、責任を持って実施することとしておりますので、これについての変更はございませんのでよろしくお願いいたします。

また、次回の協議会は、千歳であれば例年3月ぐらいに勉強会という形で開催しているかと思いますが、その際には、この運営権者の出席もしていただけるように調整しておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

補足説明は以上のとおりです。

- 千歳市（空港政策係長） 続きまして、千歳市からご報告させていただきます。

資料ですが、11ページの資料5-3、千歳飛行場東側滑走路の夜間使用についてご覧ください。

こちらの資料につきましては、新千歳空港の滑走路工事につきまして、国交省からの連絡を受けまして、4月に町内会長様宛てに文書でお知らせさせていただいておりますが、改めてこの場を借りて、ご報告させていただきたいと思っております。

新千歳空港の滑走路工事に伴いまして、工事期間中における深夜・早朝の時間帯は、A・B滑走路が同時に閉鎖されるため、航空自衛隊千歳飛行場東側滑走路を使用することとなります。

工事の実施時期につきましては、今年の6月中旬頃からは11月末頃までの約6カ月間となっております。工事の実施時期につきましては、今年の6月中旬頃からは11月末頃までの約6カ月間となっております。東側滑走路を使用する時刻は、深夜23時から翌朝6時30分までとなっております。

工事の概要ですが、空港機能の保全を図るため、A滑走路の舗装改良を行う老朽化対策事業と航空機運航の安全を図るための滑走路端安全区域整備事業であります。

7月時点における航空便の運航計画につきましては、資料のとおりとなっておりますので、後ほどご確認いただければと思います。

資料5-3の説明につきましては以上であります。

次に、1ページめくっていただきまして、12ページの資料5-4、新千歳空港関係自治体協議会平成30年度事業報告をご覧ください。

新千歳空港関係自治体協議会とは、北海道、千歳市及び苫小牧市で構成され、自治体相互間の連携と協調を図りながら諸課題に対応することによりまして、空港の国際拠点空港化の円滑な推進に資することを目的に設置された協議会であります。本協議会が平成30年度に実施した主な事業である深夜・早朝便の利用促進事業についてご報告いたします。

まず、資料の左上でございますが、空港路線バスの実証運行ということで、深夜便利用者の利便性向上を図るため、新千歳空港と千歳の市街地を結ぶ空港路線バスの運行を北海道中央バスに委託しました。

運行期間は、平成30年8月1日から10月27日までの88日間で、延べ454人の利用がございました。

続きまして、資料の右上の二次交通アンケート調査でございますが、深夜便利用者の二次交通における移動手段やニーズを把握するためのアンケート調査を実施いたしました。

アンケート結果につきましては、二次交通の充実が深夜便の利用につながる、深夜便運行に対するニーズは高く、ウェブ等による効果的なプロモーションを行うことで深夜バスの利用がますます高まる、空港従業員の利便性が高まるなどのご意見がございました。

次に、資料の右下の観光素材の整理についてということで、空港周辺地域の観光素材を整理し、トピックや施設の情報などをまとめまして、最後に資料左下の観光パンフレットの作成ということで、お手元にパンフレットを配付しておりますが、深夜便利用者や市内宿泊者等に空港周辺地域の魅力を発信し、消費活動を促進するため、観光モデルコースの提案や市内の飲食店情報を掲載した観光パンフレットを、日本語版で7,000部、英語版で3,000部作成いたしました。

詳細につきましては、後ほど資料をご確認いただければと思います。

資料5-4の説明につきましては、以上であります。

●千歳市（空港政策課長） 資料5-1から5-4までの説明につきまして、一括してご意見、ご質問をお受けいたします。

●A委員 先ほど課長からお話がありましたSPCの関係ですけど、道と市と協議会の三者合意については、これからも変わりなしというお話でしたので、そのとおりにやっていただきたいと思っております。

ただ当然、今後のSPCの関わりについてですが、次回の勉強会に出席していただくということですが、関わりについては、あくまでも協議会の一員として出てくるということではなくて、オブザーバーで出席というのを私はしてほしいと思っております。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） どういう形での出席をするかにつきましては、運営権者と協議しながら、改めて皆様にお知らせした上で対応してまいりたいと思っております。

私どもとしては、今後、空港運営のこういった情報を皆様にお知らせしていくことも重要なと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

●千歳市（空港政策課長） 他にございませんか。

●B委員 先ほど、新たなSPCの事業内容が示されましたが、現状は海外のLCCの利用者は、臨時便として旭川、帯広、函館にも臨時便ありますが、この臨時便を利用して来る観光客については、必ず札幌に来るのです。北海道に来て、札幌に行かないで、自分の国に帰るということはあり得ないのです。では、札幌来たらどこに行くかという、新千歳です。函館に降りて、また函館に戻るなどということはありません。その辺の客の動向というのを、もし把握できるのであれば、資料として次の勉強会のときに提出していただきたいと思います。

それはなぜかという、これは発着枠に大きく影響するからです。50枠に。と言うのは、要するに各空港に降りても、帰るときは、ほとんど観光に来たお客さんはごく一部で、乗るのは日本人なのです。その人たちは新千歳です。札幌から来て、函館に戻ったり、帯広に戻ったりすることはあり得ないのです。みんな新千歳です。新千歳からそれぞれの目的地、自分たちの来たところへ帰るのです。

その辺の客の動向というのを資料として出せることができたら、次の勉強会でも結構ですから、出していただきたいと思います。

●北海道（航空課長） 私、北海道庁で国際線の誘致を担当しております。ただいまのご指摘のとおり、新千歳の国際線も大変伸びているわけですが、一方で地方空港において、チャーター便という形での乗り入れも徐々に増えているという状況でございます。いろいろな回り方をしていると思いますが、現状では、道央圏、特に札幌、小樽といったところの人气が高いということで、恐らく、帯広から入って千歳でアウトという動き方も多く見られるのではないかと考えております。

その辺の実態を今後どうしていくかということでございますが、今回提案いただきましたSPCでも、空港間がきちんとした役割のもとで連携して、北海道全体でお客様を呼び込んで大きくしていこうという発想でありますので、その辺はSPCとしっかりと話し合いながら、どういった形で進めていくかを調べてまいりたいというふうに考えております。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） データのほうでございますけれども、私が知る限り、いろいろなところからいろいろなデータが出ているかと思っております。今、航空課長からお話したとおり、SPCの戦略の中にも、実は道内オープンジョーによる広域観光の促進ということが書いておまして、そのデータにつきましてもSPCとも協議しながら、集めるにはそれなりの時間をいただくことになると思いますので、長い目でご理解いただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

●千歳市（空港政策課長） 他にございませんか。

●E委員 最初のほうに戻りますが、当初の意向調査の件数と現在の進捗状況を見ますと、最終的に工事が終わるのは、いろいろあると思いますが、あと10年から、12、13年の計算になります。これは本当にそのように、その間、いろんな住民の意見、話が錯綜している中で、先ほどは責任を持ってどうだこうだと言われましたけれども、予算がなくて途中で切れた場合とか、こういうことがあり得るのかどうか、それが一つと、町内のことを言ってどうか分からないですけども、優先順位と言ってますけれども、私が見る中で、優先順位に入っていないような方で工事を終わっている方もおられるのです。そして、それを見ている方が自分のところほどのようになってい

るのかと確認したら、あなたのところは千何番目と言われたという話を聞いております。

順番が決まっているのであれば、財団のほうは、優先順位になっていないような方をどのように順番を付けているのかどうか。ある人に聞くと、これは、業者とのやりとりがあったのかないのか分からないけども、例えば、クーラーを付けるならばすぐできるけれども、そうでなければ4、5年かかりますよと言われたと言うのですが、これは本当なのかどうか、その辺をお聞きしたいと思います。

- 北海道(新千歳空港周辺対策担当課長) 優先順位の決め方、どうなんだと言うお話ですけども、優先順位を決めてやるべきだというご議論をこの中で当初させていただいて、その中で私どもの最初の提案の中では、音のうるさい地域、ものすごくラフに言うと、空港に近い地域からでどうでしょうかという提案の中で、例えば、そうは言ってもお年寄りの方がいらっしゃる、小さなお子様がいらっしゃる、受験生がいらっしゃる、いろいろな家庭の事情があるので、その辺を加味してはどうかということと、最初にその中で、比較的簡易な工事、例えばとにかく早くしてほしいのだと、それだけでいいから、補完工事と言いまして、今、どちらかということ、皆さん屋根、壁、天井の直しに使っているのですけれども、最初、補完工事の話は、寝る部屋に内窓を入れてエアコンを付けるという、そういう比較的簡易な工事を希望する方を先にやったらどうだとか、そういった議論があって、その中で優先順位を付けるに当たっては、音の大きいところ、高齢者の方が住んでいるところ、それから乳幼児がいるところ、そういったところを加点して、補完工事、比較的簡易な工事をする方にも加点して、点数の高いところからやるということで、最初の運用を始めました。

今、E委員がおっしゃるとおり、当初、簡易な工事でいいとおっしゃっていた方も、現地調査で行って工事の概要を説明すると、そこまでするのであれば、こうしてもらいたいと簡易な工事以外に全体の工事も合わせてやりたいとおっしゃる方もいて、私どもとしては、もう始めてしまっているんで、そのまま工事をしてしまっただけで、終えてしまったケースは確かにあります。

その後、そういったお話を、勉強会等を通じてさせていただいて、その中で結果的に、最初の意向調査のときに話していた話と違うようなことがあれば、そこで点数を修正して、後ろに回ってもらうようにご理解いただいて、するようにしております。

また、業者がそういうふうに行ったというのも、私も直接、工事をする方から聞きましたので、業者が特定できたので、当時、3年前ですけども、業者に道庁に来てもらって、そういったことはしないようにと強く業者には言いました。

今は、先ほど言いましたとおり現地調査で実態を把握した上で、財団職員が直接行って把握しております、その中でそういったおかしな取扱いがございましたら、ご本人のご理解を頂いて、結果的に優先順位が下がることにあってもご了解を頂いているようにやっております。

- 新千歳空港周辺環境整備財団(事務局長) 今、課長から優先順位の話がありましたけれども、基本的に私ども、皆様方とご協議しました優先順位に基づいて点数を付けて、その順位で行っているというのが事実で、それ以外の順位で行ってはおりません。

多分、E様がおっしゃった中で、近くで同じような世帯で、順番が違うのではないかとおっしゃっている方がたぶんいらっしゃると思うのですが、そこは、からたぶん、世帯構成だとか、年齢がほぼ同じような世帯であれば、補完工事の内窓、エアコンを選んでいるのか、屋根、壁、天

井のほうを選んでいるのか、それによって順位がやはり大きく変わっています。

皆様方にとっては、同じような世帯構成なのだけれども、なぜそれだけ順位が違うのだという思いがあるかと思えますけれども、あくまで補完工事で選択されたメニューによって、そこも点数を付けて、しっかり順位付けでやっているということが事実でございます。

●E委員 先ほどの質問の10年ぐらいで目途が付くのかということですが、間違いなく最後までできるのでしょうか。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 申し訳ありません。お答えが漏れておりました。

先ほどから何度か説明したとおり、この対策は、30枠を活用させていただき以上、ずっと続けていくものだというふうに考えてございまして、先ほど言いました新しい運営事業者とも連携しながらこの対策を進めていくということで、これは、ずっと行政として、もともとの24時間運用というのはエアカーゴ構想から始まっておりますけれども、地域協議会ができたのは、平成2年だったかと思えますけれども、30年間、こういうふうに続けておりますし、先ほども言いましたように、枠を活用させていただき部分につきましては、このままずっと我々、対策は生きていくと考えてございまして、何とぞ、ご理解のほど、よろしく願いいたします。

●千歳市（空港政策課長） ここでは、議題（5）の新千歳空港における最近の動向についてのご意見等ございましたらお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） それでは、これらについても、報告済みとさせていただきます。

●千歳市（空港政策課長） それでは、議題（5）の新千歳空港における最近の動向については、報告済みとさせていただきます。

最後に、その他でございますけれども、これまでの議題でもいいですし、議題以外でも結構でございますので、皆様方からからの忌憚のないご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

●F委員 お願いがあるのですが、次回でもよろしいのですが、今まで、個々の住宅の防音工事についての話をしてきたのですが、そろそろ町内会館等の防音工事についての詳細を教えてくださいたいと思えますので、一つよろしく願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 町内会館につきましては、それぞれの町内会館で、また、それぞれのご事情があるかと思えますので、それぞれの町内会館、私どものほうで一旦把握させていただいて、それらを整理した上でご提案させていただければと思えますので、どうぞ、よろしく願いいたします。

次回、3月では、難しいかもしれませんが、時間をもう少しいただけたらと思えますけれども、一旦、調査させていただきますので、よろしく願いいたします。

●F委員 個々に調査しなければ分からないということですが、大方のメニューとして、こういう工事ができるということを示していただければいいのです。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 大枠でよろしいですね。分かりました。

●F委員 確かに、一つ一つということもあります、それは相談に乗っていただければと思えます。

●千歳市（空港政策課長） 他にございませんか。

●G委員 道路のことです。

2年ちょっと経つのだけど、雨が降ったら水でじゃぼじゃぼ、ひび割れがいっぱいできて、あれではどうにもならない。市役所にも電話を入れて早く直せと言ってはいるのだけど、造ったばかりで凸凹の道に水は溜まるは、ひび割れあるは、穴も開いている。穴が開いたら、なかなか直さないけども、その場所だけは穴が開いたらすぐ直してくれるのですが、そういうやりかたしている工事はだめだからやり直せと市にも訴えているのですけれども、なかなか我々が言ったからと言っても簡単には直してくれない。だから、こういう会合でも言って、あれを直さなかったら、雨が降ったら水は溜まるは、縁のほうはひび割れもある。下の地盤から悪いのでしょうか。そうでなければ、あんなことにはならない。そういうことについて、よろしくをお願いします。

●千歳市（空港政策課長） それは、平成29年度に基金を活用して整備した祝梅の道路の劣化状況についてですね。この場では即答できませんので、私どもから担当にしっかりとお伝えまいりたいと思いますので、ご理解をお願いします。

他にございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

#### 4. 閉会

●千歳市（空港政策課長） それでは時間になりましたので、これもちまして、令和元年度第1回地域協議会を終了させていただきます。

なお、次回の協議会につきましては、改めてご案内させていただきます。恐らく、2月下旬から3月になるかと思っておりますけれども、改めてご案内させていただきます。

お帰り際には、お気をつけてお帰りいただければと思います。

本日は、お忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございました。

以上